

## 山上の説教から学ぶ：今からでも遅くない「最高の貯蓄」の仕方(28)

メッセージノート 2021.8.29

ジェットコースターの告白

**マタイ 6:19-21**<sup>19</sup> 自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。<sup>20</sup> 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫も錆もつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。<sup>21</sup> あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。(新改訳)

■ **これからの流れ**：財産／貯蓄と面白い(6:19-34)について、すなわち生活における具体的問題である経済の問題である。経済の問題は、常に私たちの神への信頼と深く関わっている。

### ■ 究極の貯蓄

- ・ 貯蓄に関する教え：消極面：「地上に蓄えるな」と積極面：「天に蓄えよ」
- ・ 「宝」(セイサウロス)
  - a. 大切なもの、価値のあるもの、財産といったものをしまっておく所や入れ物を指す言葉に由来する。比喩的には、私たちの「心」を意味する。
  - b. すなわち、金銭に限らず、名誉、地位、身分、賜物、家族、家、間違っただけの意味での仕事への執着、人の評価など、その人が価値あると思っているものが「宝」になる。
  - c. こうしたものの自体が悪いというのではない。ただ、それらへの態度、あるいは執着が問題とされている(何を持っているかではなく、それをどのように思っているかが問題)。
  - d. また、財産自体が悪い訳ではない。それらへの関心、願いがこの世で完結している(閉じ込められている)かということが問題である。(後で触れる)
- あなたにはどんな「宝」があるか？

### ■ 消極的貯蓄：どうしてこの地上に宝をたくわえてはいけないのか？

- ・ 「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい」(19)：直訳「宝を宝としてたくわえるのはやめなさい」となり、「宝」を地上に貯めること自体が目的なり、それに縛られることへの強い注意が与えられている。
- ・ なぜなら、「虫がつく」：衣服を食い荒らす虫のことで、高価な衣服は宝とされていた。
- ・ 「錆がつく」：「食べる」の意味で、ここでは、貯蔵された穀物や財産がねずみなどに食い尽くされること。
- ・ 「きず物になる」：「消えて無くなること」。一生懸命貯めても、誰かが盗んでいくかもしれないし、腐ってしまうかもしれない。当時の家や倉庫は、粘土を固めて作られたので、泥棒は壁に穴を開け、そこから盗んでいった。それもまた不安材料になる。
- ・ 「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです」(21)：この真理は、天に宝を蓄えることにも、地上にそうすることにも通じるが、地上に宝を蓄えようとすれば、心は、地上に束縛され、もし天に積むならば、天に関心がいく。それゆえ、宝をどのような態度で管理するかということが重要。
- 「宝」とは、自分にとって大切だと考えるものを集めておく場所だと学んだが、これまでどんなものを集めて来たのだろうか？

### ■ 積極的貯蓄：天に宝を積むことの勧め(心はどこに向いているのか？)

- ・ 人生についての正しい視点を持つ：聖書は、私たちこの世の人生というのは、一貫して「旅人、寄留者」で

あるという。それは、永遠の御国への旅を続ける者の姿である。

- ・ 人生とは、「テスト」（訓練）であり、「預かりもの」（任されたものをいかに用いるか）、「一時的な務め」（永遠への備え）である（『5つの目的』R.ウォレン）。cf.宣教地から戻って来た宣教師
- ・ ロイド・ジョーンズ『山上の説教』p.126
- ・ 発想の転換の必要性：これは、この世の中を支配している人生観とは全く異なった考え方である。人生がこの地上だけで終わってしまうものなのか、それとも永遠への備えとしてあるのか、このことは、一人一人ができるだけ早い段階で、はっきりとさせておかなければならない「人生を見る視点」である。
- ・ 父「オリンピック出た後どうするのか？」。私「その時考える。今はとりあえず、出ることが人生の最大の目標」。しかながら考えて見ると、私にとって「オリンピック」とは、人から認められるための場であり、それは、「たとえばオリンピック」だったことがわかる。

#### ■ では、どうやって考え方を変えたら良いのか？

- ・ 不正の富で友を得た管理人を褒められたイエス（ルカ 16:1-13）→変わり身の早さ。その終わりを見て決断した。cf.この記事は、「放蕩息子」と「ラザロと金持ち」の間に出てくる。cf.詩篇 90:12 人生の短さと知恵  
ルカ 16:1-13<sup>1</sup> さてイエスは、弟子たちにも話をされました。「ある金持ちが会計の管理者を雇いました。ところが、この管理者はずる賢い男で数字をごまかしている、といううわさを聞きました。<sup>2</sup> さっそく金持ちは彼を呼びつけて、言いました。『帳簿をごまかしているという、もっばらのうわさだ。なんということをしたのか。もう任せておけないから、やめてもらおう。報告書を出しなさい。』<sup>3</sup> 男は考え込みました。『さて、どうしたものか。首になるのは時間の問題だ。力仕事はできないし、かといって、物ごいをするのも恥だ。<sup>4</sup> 待てよ。そうだ、こうしよう。これなら、いつ首になっても、みんなが面倒を見てくれるに違いない。』<sup>5</sup> どうしたかということ、彼は雇い主からお金を借りている人を一人一人呼び出して、話し合ったのです。まず、最初の人とはこんなぐあいに。『主人にいくら借りがありますか。』<sup>6</sup> 『オリーブ油百バテ（三千五百リットル）です。』『そうですか。これが証文ですね。さあ、これを破って。代わりに、その半分を借りたという証文を書くのです。』<sup>7</sup> 次の人にも同じように、『あなたの借りはどのくらいですか。』『小麦百コル（三十トン）です。』『いいでしょう。では、新しく八十コルの証文を書いてください。これと取り替えてあげるから。』<sup>8</sup> この抜け目のなさには、さすがの金持ちも舌を巻き、うまいやり方だ、とほめないわけにはいきませんでした。確かに、この世の人々のほうが、神を信じる者たちよりずっと抜け目がないのです。<sup>9</sup> 不正の富を利用してでも、親しい友をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなった時、親切にしてやった人たちが、永遠の天の住まいに迎え入れてくれるでしょう。<sup>10</sup> 小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実です。小さなことに不忠実な人は、大きな責任を与えられても、忠実に果たすことはできません。<sup>11</sup> この世の富も任せられない人に、どうして、天にあるほんとうの富を任せることができるでしょう。<sup>12</sup> 他人の富に忠実でなかったら、自分の富さえ任せてもらえないのです。<sup>13</sup> だれも、二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方に忠実であるか、あるいは、一方を重んじて他方は軽んじるようになるからです。神と富の両方に仕えることはできないのです。」
- ・ 神が提供される人生を振り返る機会を無駄にしない  
ヘブル 13:7 あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。

#### ■ まとめ

- ・ あなたは人生をどのように捉えているか？ これまでは？ これからは？
- ・ あなたの宝とは何か？ あなたはそれらの宝をどのように用いようとしているだろうか？